

ようこそニツ森貝塚へ



ニツ森貝塚は小川原湖西部の台地上に位置する、縄文時代前期中頃から中期後半（約 5500 ～ 4000 年前）に営まれた貝塚を伴うムラの跡です。

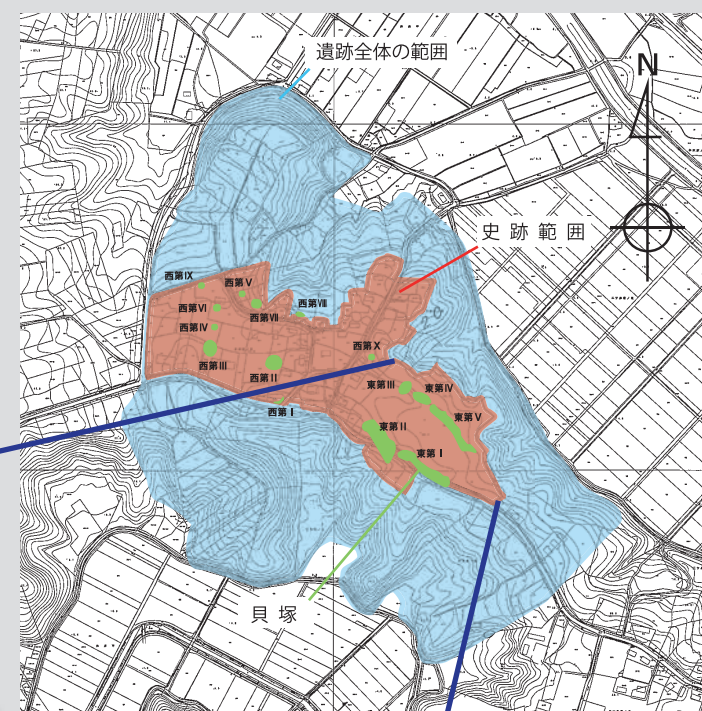
遺跡の存在は明治時代から知られ、これまで東西 15 ヶ所の貝塚をはじめ、複数の竪穴建物跡、貯蔵穴、お墓などが見つっています。また土器、石器のほか貝塚から貝類、魚骨、獣骨など縄文時代の生活や生業を示す多様な遺物が見つかり、貝塚では青森県で最大の規模（史跡面積：約 11 万㎡、遺跡全体の面積：約 35 万㎡）を誇ります。

	旧石器時代	
約 15000 年		縄文時代
	草創期	
約 11000 年	早期	
約 7000 年	前期	
約 5000 年	中期	
約 4000 年	後期	ニツ森貝塚
約 3000 年	晩期	
約 2400 年		
	弥生時代	

ニツ森貝塚史跡公園

国指定範囲の東側を平成 10 年から史跡公園として公開しています。

東側の範囲では 5 ヶ所の貝塚が帯状に分布し、公園の中央部を中心に複数の竪穴建物跡や貯蔵穴が見つっています。



①埋葬されたイヌ（約 4000 年前）

貯蔵穴の底からメスの幼犬の骨が発見された。人間によって埋葬されたと考えられる。



④東捨て場（約 5000 年前）

不要になった土器や石器などの廃棄場所といわれている。縄文時代前期後半から中期前半に形成されたと考えられる。



②竪穴建物跡・貯蔵穴

公園中央部の周辺では複数の竪穴建物跡や、食べ物などを保存する貯蔵穴が見つっている。



③東第Ⅱ号貝塚（約 5000 年前、4000 年前）

前期後半から中期前半、中期後半の貝塚で、最大で 1.5m ほどの堆積がみられる。県重宝の鹿角製櫛などが見つっている。



⑤埋葬された人骨（約 4000 年前）

貯蔵穴の底から 9 体の人骨が発見された。9 体は同時期に埋葬されたと考えられる。



⑥お墓と道路

東西にのびる道路状遺構に沿ってお墓（土坑墓）が南北の向きで規則的に配置されていた。お墓の多くは縄文時代中期前半のものと考えられる。

